

自己評価票

- 自己評価は全部で101項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>23</u>
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	8
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>10</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>17</u>
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>38</u>
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	<u>13</u>
	<u>合計</u> <u>101</u>

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに問わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームぶなの木
(ユニット名)	1F
所在地 (県・市町村名)	魚沼市井口新田673-1 (魚沼市)
記入者名 (管理者)	岡部 聰子 (金沢 真美)
記入日	平成 20年 11月 1日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(■ 部分は外部評価との共通評価項目です)
 (項目5, 7, 8, 9, 14, 15は評価重点項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容 実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。		グループ独自の「1.笑顔」「2.満足」「3.まごころ」の理念を中心となる職員でつくりあげている。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		いつでも、目にしやすい様に、事務所、廊下などに掲示し、職員会議などで話し合いの機会をもっている。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる		入居者、家族、見学者等の目にふれやすい様に、廊下などに掲示し入居者家族などわかりやすく説明されている。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		グループホームで作った野菜をおすそ分けしたり、御近所から野菜やお花を頂いたり、夏にグループホームで行う納涼会のお知らせを配り、立ち寄ってくれる事などもある。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	○	地域のお祭りに参加したり、お祭りのおみこしが寄ってくたり、地域のボランティアの受け入れも積極的に行ってい。地域のお祭りに参加をさせてもらったり、みこしが寄つてくれたりと、推進委員の方がパイプ役になり、地域の行事などを詳しく教えていただいている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6 ○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	事業所内での、職員の研修の他にも、地域の様々な研修や会合に関わりながら、認知症ケアに努めている。AED導入をした事も、推進委員さんを通して知らせてある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前年度の外部評価の結果について話し合い具体的な改善策を出し、それに向けて職員全体で取り組んでいる。		
8 ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月の報告だけの会議ではなく、参加されている方々の意見、要望こちらからの要望もきいてもらい、地域からグループホームがういたものにならないよう、特に地域の代表の方からパイプ役になつてもらい、行事などの参加で、交流がもたれるようにしている。	○	パイプ役となつてもらえるよう、市、町内などの情報を教えて頂いている。委員の方々からのお話で、他の人達にもぶなの木の事を少しずつ知っていただけている。
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の主催する地域ケア会議などに参加し、ケアについての研修や情報交換を行っている。また、分からぬ事や情報交換は、地域包括支援センターと電話などで連絡をとっている。		
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	利用者の中に対応者がいる為、職員にも説明し、必要な時に支援できる体制にしている。	○	成年後見制度の対応が必要な方がおり、制度開始になった時には、再度説明をし、職員全体で支援している。 1/17 金 次回に確認 ○付代行依頼される。
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	職員が虐待防止の研修に参加できる機会を持ち、資料などはいつでも見られるようにし、虐待の疑いがある場合などは、報告するようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	契約される時など、利用料金、看取りの対応、医療連携体制など、特に丁寧に説明し理解され安心されるように努めている。	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	利用者の態度や言葉などの様子に気をつけ、意見や苦情などがあった場合は、話し合いの場を持ち、利用者本位の運営を心がけている。	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	面会に来られた時、薬などが変更になった時などは、利用者の日頃の様子などをお話しし、定期的なおたよりの他、個々に合わせ電話で報告をしている。	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	面会に来られた時など、意見・苦情などを話しやすい雰囲気作りを心がけ、玄関近くには意見箱を設け、出された意見・苦情などは、職員で話し合い運営に反映させている。	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	月1回の職員会議で、意見などを聞く場を設け、普段から何でも言える雰囲気作りを心がけ、出た意見などをレクリエーションなどに取り入れている。	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	利用者さんの自由な暮らしを出来る限り支えられる様に、必要な時間帯の職員の確保に努めている。	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	利用者のダメージなどを防ぐために、異動などがあった場合は、実習などで慣れる期間を設け、安心されて過ごされる様に配慮している。	
18-2	<p>○マニュアルの整備</p> <p>サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しが適宜行われている。</p>	各種マニュアルを作成し、いつでも確認出来る様にファイルし、適宜見直しを行っている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	他の研修会や学習会には、なるべく多くの職員が参加できる様にし、報告書や資料などは職員全員が見る事のできるようにしてある。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会や、他グループホームとの集まりに参加し、他事業所の意見や経験を活かしていくように努めている	○ サービスの質を向上させていく為に、他グループホームへの見学・実習を計画している。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	日常的に、職員のストレスや悩みを把握するように努め、気分転換できる休憩室を確保し、職員同士の人間関係を把握するように心がけ、交流のための親睦会を行っている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働くように努めている	運営者は、頻繁に利用者や職員と話しをしストレスや悩みを把握するよう努めている。 各自向上心を持って働けるように、資格取得や講習会への参加を支援している。	
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聞く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用前から、本人の生活状態を把握し、求めている事や不安を理解するよう努めている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聞く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用前から、ご家族の困っている事、不安な事また、求めている事をじっくりと聞き、どのような対応を行っていくか話し合っている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まざ必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談された時などは、出来る限り対応に努め必要に応じて地域包括支援センターや他の事業所等と連携しながら対応に努めている。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するため、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	職員が本人の面接に出向いたり、本人・家族から見学などをしてもらい、入居時には、本人の使っていた、食器・仏壇・家具などを持ってきてもらい、安心できる環境作りをし、ゆっくりとサービスをすすめていくようにしている。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	普段から会話の出来る時間を持ち、本人の得意なこと、好きな事を教えてもらう場面を作り、入居者・職員といった意識を持たず、お互い和やかな生活ができる様心がけている。	
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	支援していると言う一方的な関係ではなく、常に情報交換を行い、本人を支えていく為の協力関係を築いていく様に努めている。	
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	これまでのご家族と本人との関係を良く理解し、無理なくより良い関係が築いていける様に心がけている。	
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居されたことで、今までの馴染みの人や場所との関係が途切れないように心がけ、その人の生活習慣を尊重していくよう努めている。	
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支えあえるように努めている	入居者同士が助け合い、支え合って行く中で心身の状態や、気分・感情で日々変化することもあるので、注意しながら見守り支援に心がけている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	<input type="checkbox"/> 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつき合いを大切にしている	退居された方にも、ご家族の相談にのったりしながら、継続的な付き合いができるように心がけている。	
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	<input type="checkbox"/> 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で、本人の希望や意向を可能な限り実現できる様に努め、意思疎通が困難な方には、今までの様子の分かる方、家族などから情報を得るようにしている。	
34	<input type="checkbox"/> これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やご家族などから、話を聞かせてもらい、入居されてからも日常生活の中から把握するよう努めている。	
35	<input type="checkbox"/> 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するよう努めている	今までの生活リズムを理解し、情報だけにとらわれず、生活していく中で、その人の力を理解し把握するよう努めている。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<input type="checkbox"/> チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	計画作成担当者が中心となり、本人・家族からの要望や意見を聞いたうえで、職員のための介護計画ではなく、本人のための介護計画を作成している。	
37	<input type="checkbox"/> 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	職員が常に状態の変化に気をつけ、状態の変化や家族の要望などが聞かれた時に応じて検討見直しを行う。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日個々のケア記録に記載し、個別に連絡したい事は、連絡ノートに記載し、職員同士情報を共有し、介護計画の見直しなどにも活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者やご家族の状況や要望に応じ、通院・買い物など必要な支援などは柔軟に対応し、利用者・家族の負担を軽減できるよう努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域ボランティアへの呼びかけや、他施設への訪問などをを行い、他と協力しながら支援している。		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャー・サービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人に合わせ、訪問理容サービスを利用されたり、他施設の催し物などに参加できるように支援をしている。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に、地域包括支援センターの職員から参加して頂き、情報や意見を聞かせてもらい、成年後見制度が必要な利用者には、地域包括支援センターに協力してもらい支援に努めている。		
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望されるかかりつけ医と、協力医のどちらでも医療を受けられるようにしておりご家族の受診同行が無理な時は、職員が代行するようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力医療機関が、脳神経外科であり、認知症専門医である。治療方針、認知症についての指示や助言をもらっている。	
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	訪問看護ステーションと契約をしており週1回の訪問と24時間いつでも対応してもらえる体制が確保されている。	
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者の入院時には、本人を支援する為の情報を医療機関に提供し、家族との情報交換を頻繁にしながら速やかな退院の支援に結びつけている。	
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合には、協力病院で受け入れてくれるよう連携をとり、終末期を迎える前の段階で話し合いの場をもち、本人・家族の安心や納得を得られるよう支援していく方針です。	
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	本人や家族が安心し納得していただけるよう、かかりつけ医とも密に連携を図り、急変された場合などすぐに対応していただけるように努めていく。	
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	他の事業所などへ移られる場合は、本人のダメージを防ぐ為にも、きめ細かい情報提供をし、今までの暮らしの継続性が損なわれないように連携を心がける。入居の際はひとつでも多く情報を得るようにしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<input type="checkbox"/> プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	研修会やミーティング時などに、毎日の関わり方や、利用者の誇りやプライバシーを損なわない対応の徹底を図っている。	
51	<input type="checkbox"/> 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	職員で決めた事を押しつけるのではなく、利用者さんと相談しながら決めたり、本人が自分で決めることのできるよう支援に努めている。	
52	<input type="checkbox"/> 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合によるスケジュールに合わせるのではなく、一人一人の生活ペース、またその日の状態に合わせたその人なりの生活をしていただくよう支援している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<input type="checkbox"/> 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	朝・夕・入浴後などの着替えは、本人の意向で決めていくように努め、理美容院なども、本人の希望に合わせた店などに行かれるよう支援している。	
54	<input type="checkbox"/> 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望を取り入れながら、献立を作ったり、畑でとれた野菜なども利用している。調理法もその人に合わせ、準備・食事・片付けを職員と利用者と一緒に行うよう努めている。	<input checked="" type="radio"/> 利用者と一緒に、近くのスーパーへ、おやつを買いに出かける。好きな物を自分で選ばれ楽しめている。
55	<input type="checkbox"/> 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	利用者一人一人の嗜好物をよく理解し、出来る限り意向に添えるように努めている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56 ○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄の失敗が多かった方でも時間を見計らって誘導する事により、失敗が少なくなり、失敗した時なども本人を傷つけないような声かけ、周囲の配慮をしながら支援している。		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	その日その人に合わせた入浴の支援、入浴を拒まれる人の声かけや対応を考えながら、本人が安心できる入浴に努めている。	○	午後入浴を行っているが、希望があれば午前入浴、夜間入浴にも対応できる準備をしている。
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	毎日の生活リズムを整え、一人一人の体調などを考慮し、ゆっくりと安心して休息がとれるよう支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畑仕事、調理、食器片付け、食器洗い、清掃など得意な所を活かし、仕事などをお願ひし、外出・外食・ボランティアなど、気晴らしになる楽しみな事を支援している。		
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を持ったり使えるように支援している	その人その人に応じて、お金を所持され、買い物や受診された時など、自分で支払うという安心感や満足感をつ配慮し、支援に努めている。		
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の希望が可能な限り、日光浴・散歩などを心がけ、その人の希望に合わせ買い物・ドライブなどに出かけるよう支援している。		
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともにに出かけられる機会をつくり、支援している	普段から希望されている所へ出来るだけ外出できる機会を作れるように、職員同士で話し合いを持ち、実現できるよう支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族などからの電話のかけやすい雰囲気を作り、いつでも本人からも電話のかけられる態勢にし、手紙を出す代行も頼みやすい雰囲気を作り支援している。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族や友人などが、いつでも気軽に訪問していただける様に、訪問時間は定めておらず居室だけでなく、他にも居心地よく話しが出来るスペースを整えて対応している。		
(4) 安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は、身体拘束で利用者が受けたダメージなどをよく理解し、身体拘束を行わないケアについても、ミーティングなどで話し合い取り組んでいる。		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者が外へ出かけようとする時は、声をかけ話しを聞き、場合によっては、一緒について行くなど鍵をかける事なく、生活して頂けるように努めている。		
67 ○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は、常に利用者の様子を見守る為に、フロア全体把握するようにし、夜間も数時間ごとに利用者の様子を確認し、すぐに対応できる場所で安全に努めている。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用される前の生活からも配慮し、全ての物を保管・管理するのではなく、様子を見ながら利用者の状況の変化に気をつけながら対応していく。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	各マニュアルを準備し、ひやりはっと、事故報告書を別々に分かり易くファイルし、報告があつた時などは速やかに話し合い、誤薬のないように、朝・昼・夕と袋の色わけをし、事故防止に取り組んでいる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	AEDを導入し、急変時などに備え、夜間帯などの人手の少ないときの緊急時対応については特にマニュアルを整備し、周知徹底を図り、再度の急変時の研修を計画している。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	自主的な非難訓練、消防署の協力を得ての訓練を定期的に行い、近所に職員も住んでおり、協力を得られる。	○	推進委員を通し、災害時などの避難場所として利用もらうよう声かけをしているので、その場合など協力を得られると思う。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	一人一人に起こり得るリスクについて、職員は把握し、家族へは事業所の取り組み方を丁寧に説明し理解を得られるよう努めている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	一人一人の普段からの様子を把握し、何か変化の見られた場合は、バイタルチェックなどを行い、訪看の指示を受け、速やかに職員間で共有し対応にあたる。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の薬の内容を把握できるようにファイルし、服薬時は間違えのない様名前を確認し、きちんと服薬できているか確認する。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食事などでも、纖維質の物、乳製品の物などを取り入れ、毎日の体操などで体を動かし自然排便にできるように努めているが、排便困難な場合には、個々に合わせた下剤などを使用している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	職員全体で、口腔ケアの重要性を理解し、毎食後一人一人に応じた、声かけ、見守り、介助を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通して確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事量などを職員が把握し、栄養面でも栄養士から定期的にアドバイスをもらい、体調などによって調理方法を工夫し、普段と様子の違うときなどは、チェック表をつけ、訪問などに相談する。	
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	起こり得る感染症に対し、マニュアルを作成し、予防や対策に努め、手洗い後はペーパータオルを使用し、インフルエンザ対策として職員も予防接種をし、手洗い・うがいなどを心がけできる予防を徹底して行っている。	
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は、毎日配達してもらい、必ず品質チェックを行い、まな板・ふきん・おしぶり等毎日の漂白を行っている。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1) 居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関前には、いつでも一息つけるように、ベンチを置き、明るく広い玄関になるよう心がけ、ホームの回りには花を植えなごまれる雰囲気作りに工夫している。	
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂や居間には、利用者の馴染みの物や使いやすい物を置き、いつでもお茶が飲める工夫をし、台所などの引き出しも利用者が何をどこから出せばいいのかなど、一緒に考え工夫し、廊下などには季節の花や絵を飾り、季節感を取り入れている。	
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思に過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関ホールに、小さなベンチを置いたり、リビングにソファー やカーペットを敷いたり、たたみの居間を用意したりと、好きな所で過ごせる工夫をしている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、本人が居心地よく過ごせるように使い慣れた寝具や仏壇などを置かれカーペットや家具なども家族・本人と相談し、本人が居心地の良く過ごされるものを使われている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	空気の入れ替え、温度調節は職員が常に気を付け、居室内はその人に合わせた温度調節をするように努めています。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内の手すり、浴室、トイレ、廊下など利用者に適しているかどうか配慮し、利用者の自立を意識し工夫している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人一人が「何が分かって、何が分からない」かを職員全員が理解し、状態が変わった時には、話し合いをもち、常に状態に合わせた環境を作るよう努めている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の周りに木や花を植え、利用者が楽しんだり活動できる環境を作り、玄関先には、ベンチなどを置いて日なたぼっこや、夕涼みが出来る工夫をしている。		

V. サービスの成果に関する項目

項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者の
		<input checked="" type="radio"/> ②利用者の2/3くらいの
		③利用者の1/3くらいの
		④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input checked="" type="radio"/> ①毎日ある
		②数日に1回程度ある
		③たまにある
		④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
		②利用者の2/3くらいが
		③利用者の1/3くらいが
		④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
		②利用者の2/3くらいが
		③利用者の1/3くらいが
		④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
		②利用者の2/3くらいが
		③利用者の1/3くらいが
		④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
		②利用者の2/3くらいが
		③利用者の1/3くらいが
		④ほとんどいない
94	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
		②利用者の2/3くらいが
		③利用者の1/3くらいが
		④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての家族と
		②家族の2/3くらいと
		③家族の1/3くらいと
		④ほとんどできていない

項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input checked="" type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input checked="" type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
98	職員は、活き活きと働けている	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の2/3くらいが <input type="radio"/> ③職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> ③家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

ホームの裏は、のどかで静かな田園風景が広がり、ホームの周りにはきれいな花を植え、畑で野菜をつくり、入居者と収穫を楽しむことができます。

ホーム前の駐車場が広いのでベンチを置いて日向ぼっこをしたり、入居者のご家族と納涼祭を楽しむこともできます。

医療の面でも、訪問看護ステーションと連携し24時間、医療面での対応が可能な体制をとっています。

職員全員が魚沼三山の自然に囲まれた環境の中で、生き生きとした生活が送れるよう、お手伝いをさせて頂きたいと思っています。